

令和2年度「狛江市学習状況調査」の結果 及び 経年変化の分析（小学校）

令和3年2月16日
庁議資料

調査実施日 令和2年7月29日（水）～9月15日（火）で各学校が日程を決めて実施（例年は4月中旬に実施しているが、今年度はコロナの影響で変更した。）

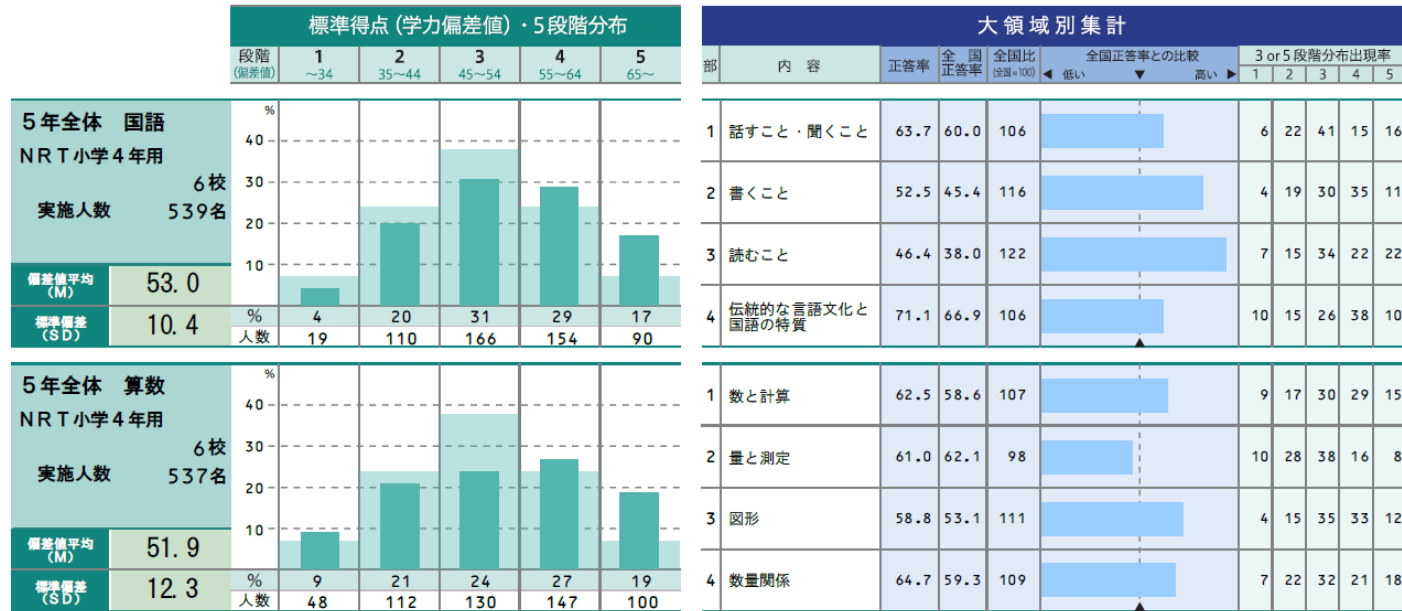
調査対象、実施教科等

調査の目的
◇ 児童の学習状況を把握し、児童の学力を把握・分析する。
◇ 分析結果を基に日々の授業改善を行い、児童の学力向上に資する。

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数	
小学校	第5学年	国語、算数	前学年までに履修した内容	40分間、配布と回収を含め1単位時間（45分）を充てる。	539人
	第6学年	国語、算数		568人	

「狛江市学習状況調査」（標準得点・5段階分布と大領域別集計）

第5学年

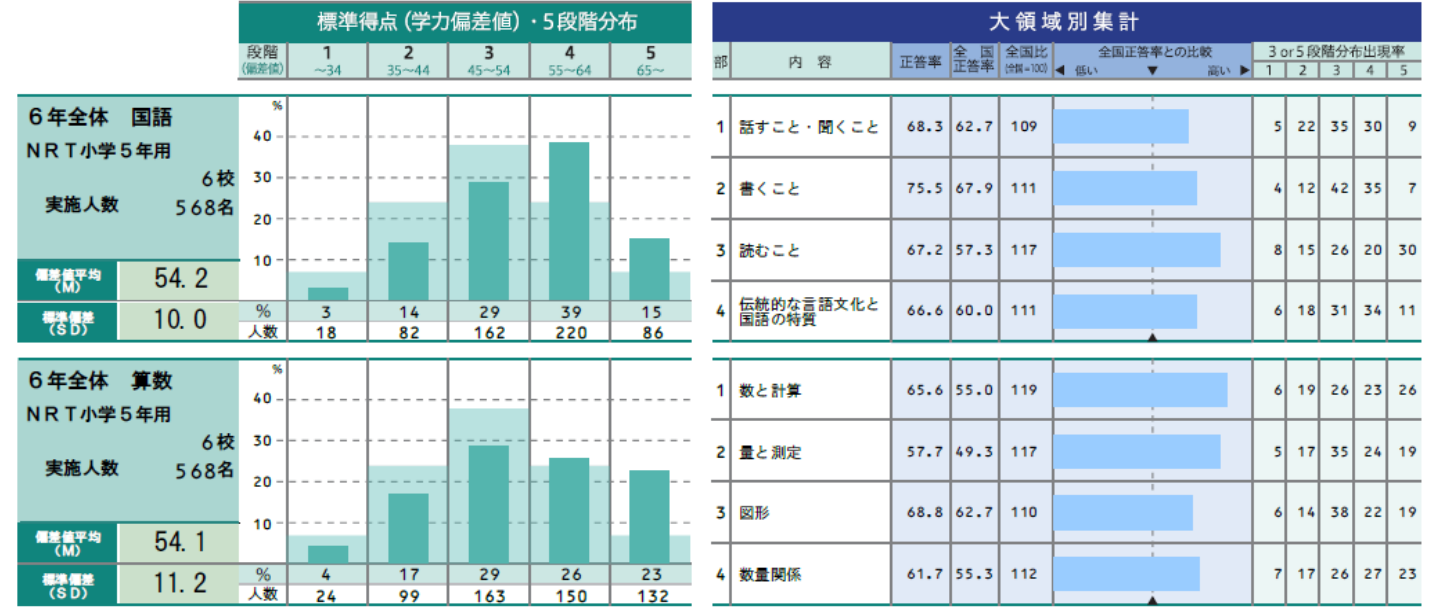


国語では、学力偏差値 65 以上の段階5の割合が17%を占めており有意に高い数値となった。全ての領域が全国より高かったが、特に「書くこと」の領域では全国より16%、「読むこと」の領域では、全国より22%高かった。

算数では、学力偏差値 65 以上の段階5の割合が19%を占めており有意に高い数値となったが、学力偏差値 34 以下の段階1の割合が9%と全国よりも若干高くなっていた。ほとんどの領域が全国より9%程度高かったが、「量と測定」の領域だけが全国より2%低くなった。

「狛江市学習状況調査」（標準得点・5段階分布と大領域別集計）

第6学年

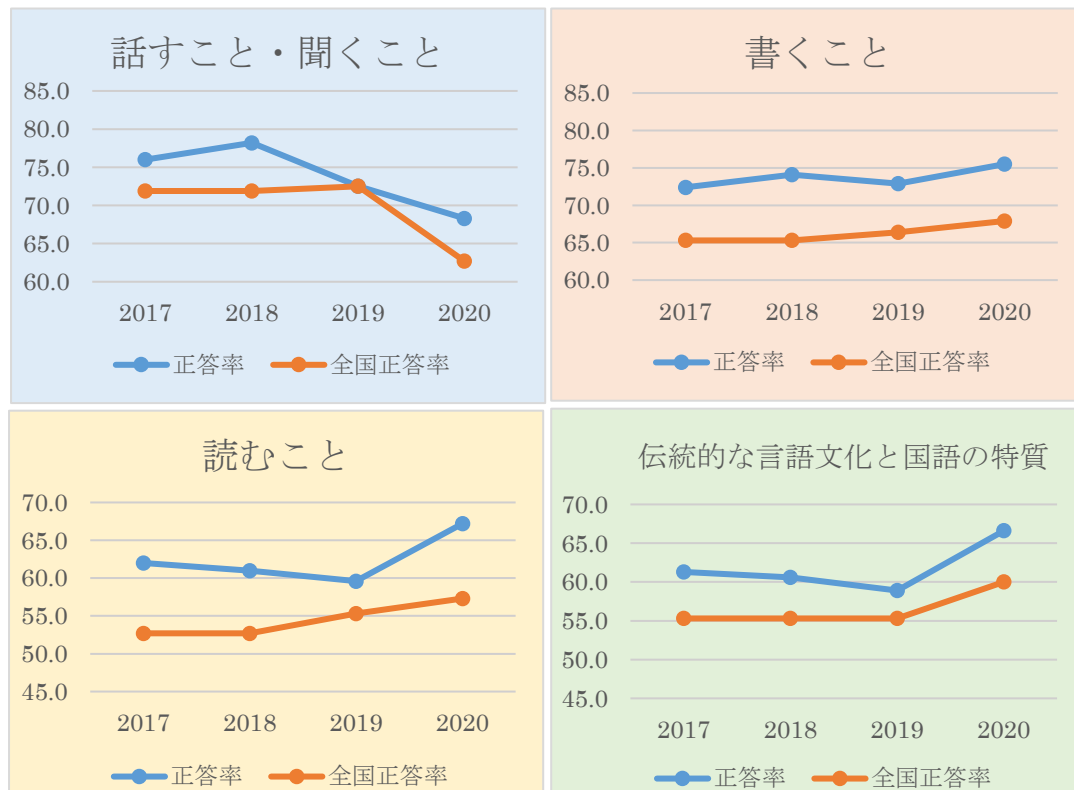


国語では、学力偏差値 65 以上の段階5の割合が15%、学力偏差値 55 以上の 64 以下の段階4の割合が39%で、合わせて全体の54%を占める割合となることから有意に高い数値となった。全ての領域で全国より10%程度高かったが、特に「書くこと」の領域では全国より17%程度高かった。

算数では、学力偏差値 65 以上の段階5の割合が全体の23%、学力偏差値 55 以上の 64 以下の段階4の割合が26%で、合わせて全体の49%を占める割合となることから有意に高い数値となった。全ての領域で全国より10%程度高かった。

第6学年 大領域別集計の推移

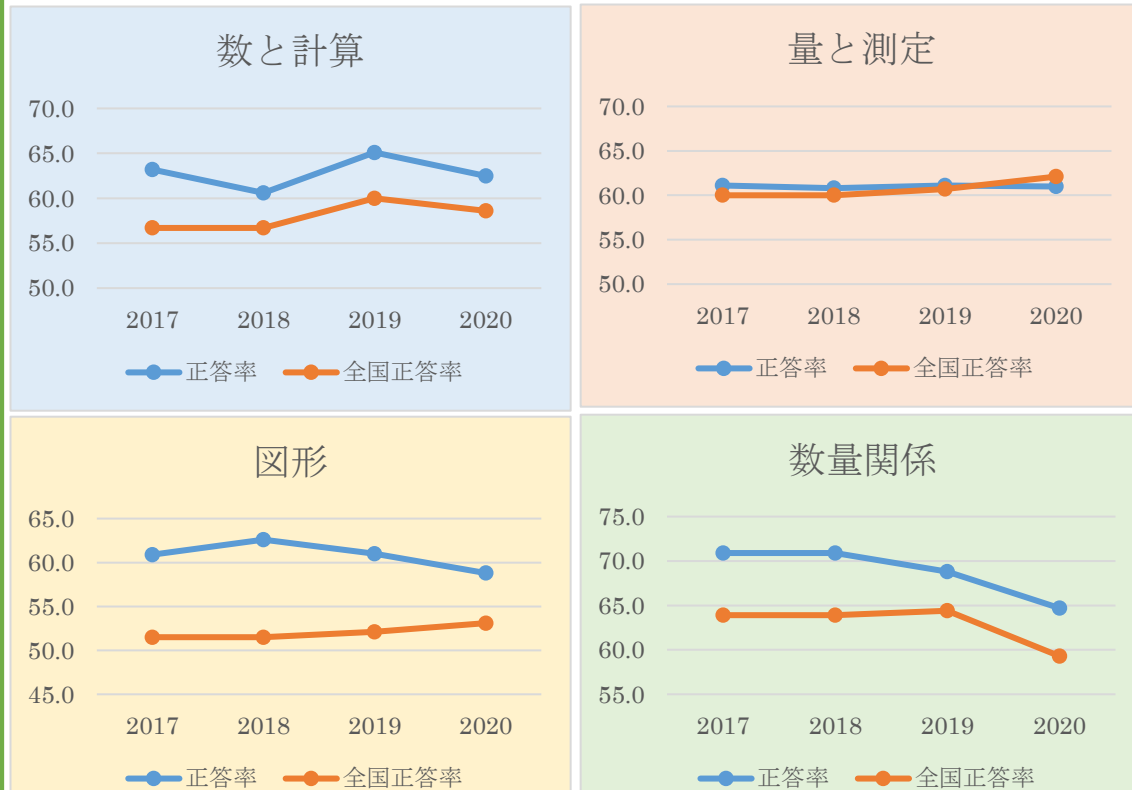
国語



「話すこと・聞くこと」の正答率が狛江も全国も今年度は10%程度低くなっていることから問題の難度が高かったことが推定される。全国正答率（以下「全国」と）とほぼ同じであったが、今年度は5%程度高かった。「書くこと」は近年と同様に全国より7%程度高く推移している。「読むこと」は昨年度より全国的に3%程度伸びた。狛江の正答率は近年と同様に全国より8%程度高く推移している。「伝統的な言語文化と国語の特質」は狛江も全国も今年度は6%程度高くなっていることから問題の難度が低かったことが推定される。正答率は近年と同様に全国より6%程度高く推移している。

第6学年 大領域別集計の推移

算数



「数と計算」の正答率は昨年度より全国平均で3%程度減ったが、狛江の正答率は近年と同様に全国より4%程度高く推移している。「量と測定」は近年と同様に全国とほぼ同じ正答率で推移している。「図形」は2018年に全国より11%も高かったが、近年はその差が縮まっており、今年度は全国との差が5%程度となった。「数量関係」の正答率が狛江も全国も今年度は5%程度低くなっていることから問題の難度が高かったことが推定される。正答率は近年と同様に全国より5%程度高く推移している。

令和2年度「狛江市学習状況調査」の結果 及び 経年変化の分析（中学校）

令和3年2月16日
庁議資料

調査実施日 令和2年7月29日（水）～9月15日（火）で各学校が日程を決めて実施（例年は4月中旬に実施しているが、今年度はコロナの影響で変更した。）

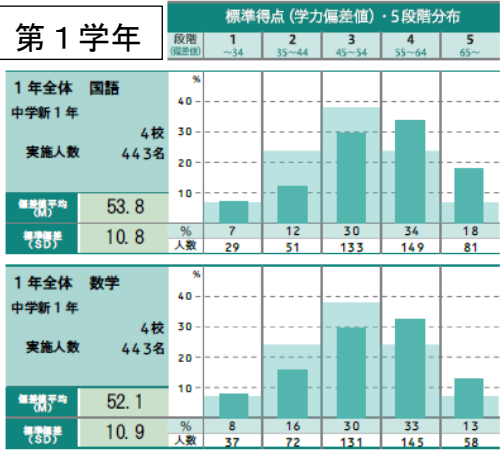
調査の目的

- ◇ 生徒の学習状況を把握し、生徒の学力を把握・分析する。
- ◇ 分析結果を基に日々の授業改善を行い、生徒の学力向上に資する。

調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数	
中学校	第1学年	国語、算数	前学年までに履修した内容	45分間、配布と回収を含め1単位時間（50分）を充てる。	443人
	第2学年	国語、算数、英語			402人
	第3学年	国語、算数、英語			376人

「狛江市学習状況調査」（標準得点・5段階分布と大領域別集計）

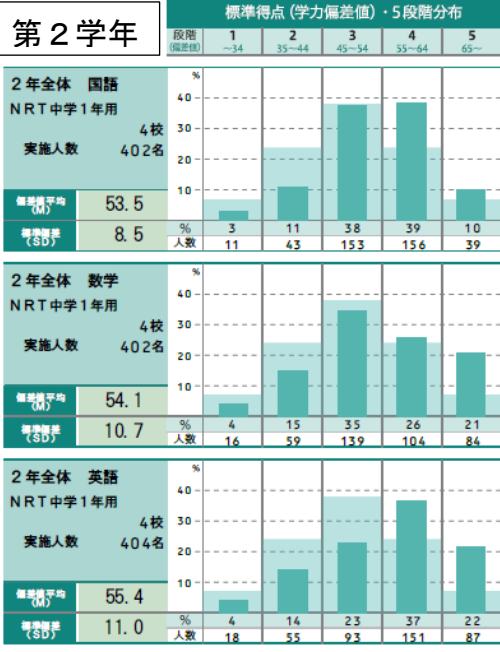


大領域別集計

部	内容	正答率	全国正答率	全国正答率との比較	3 or 5 段階分布出現率
1	話すこと・聞くこと	73.1	67.9	108	7 19 36 31 6
2	書くこと	70.6	61.4	115	4 15 32 29 20
3	読むこと	64.2	56.4	114	5 15 43 24 12
4	伝統的な言語文化と国語の特質	64.9	61.3	106	6 18 44 23 10

国語では、学力偏差値 65 以上の段階5の割合が全体の 18%を占めている。学力偏差値 55 以上の段階4以上の割合は全体の 52%を占めている。「書くこと」「読むこと」の領域では全国正答率（以下「全国」）より 15%程度上回っている。

数学では、学力偏差値 55 以上の段階4以上の割合が全体の 46%を占めている。ただし、学力偏差値 34 以下の段階1が 8%を占めており、全国より若干多い。



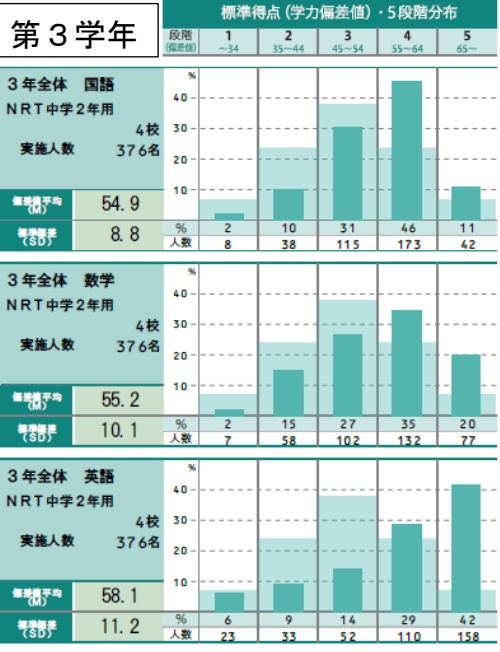
大領域別集計

部	内容	正答率	全国正答率	全国正答率との比較	3 or 5 段階分布出現率
1	話すこと・聞くこと	77.2	67.9	114	2 15 35 35 12
2	書くこと	68.2	62.3	109	4 14 36 32 15
3	読むこと	47.7	43.1	111	4 15 38 29 14
4	伝統的な言語文化と国語の特質	50.2	45.3	116	5 20 30 32 12

国語では、学力偏差値 55 以上の段階4以上の割合が全体の 49%を占めており有意に高い数値となっている。また、「話すこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」の領域が全国を約 15%上回っている。

数学では、学力偏差値 65 以上の段階5の割合が全体の 21%を占めている。特に「数と式」の領域は全国より約 30%上回っている。

英語では、学力偏差値 65 の段階5以上が全体の 22%、学力偏差値 55 の段階4以上が全体の 59%を占めており有意に高い。特に、「書くこと」の領域は全国より 22%上回っている。



大領域別集計

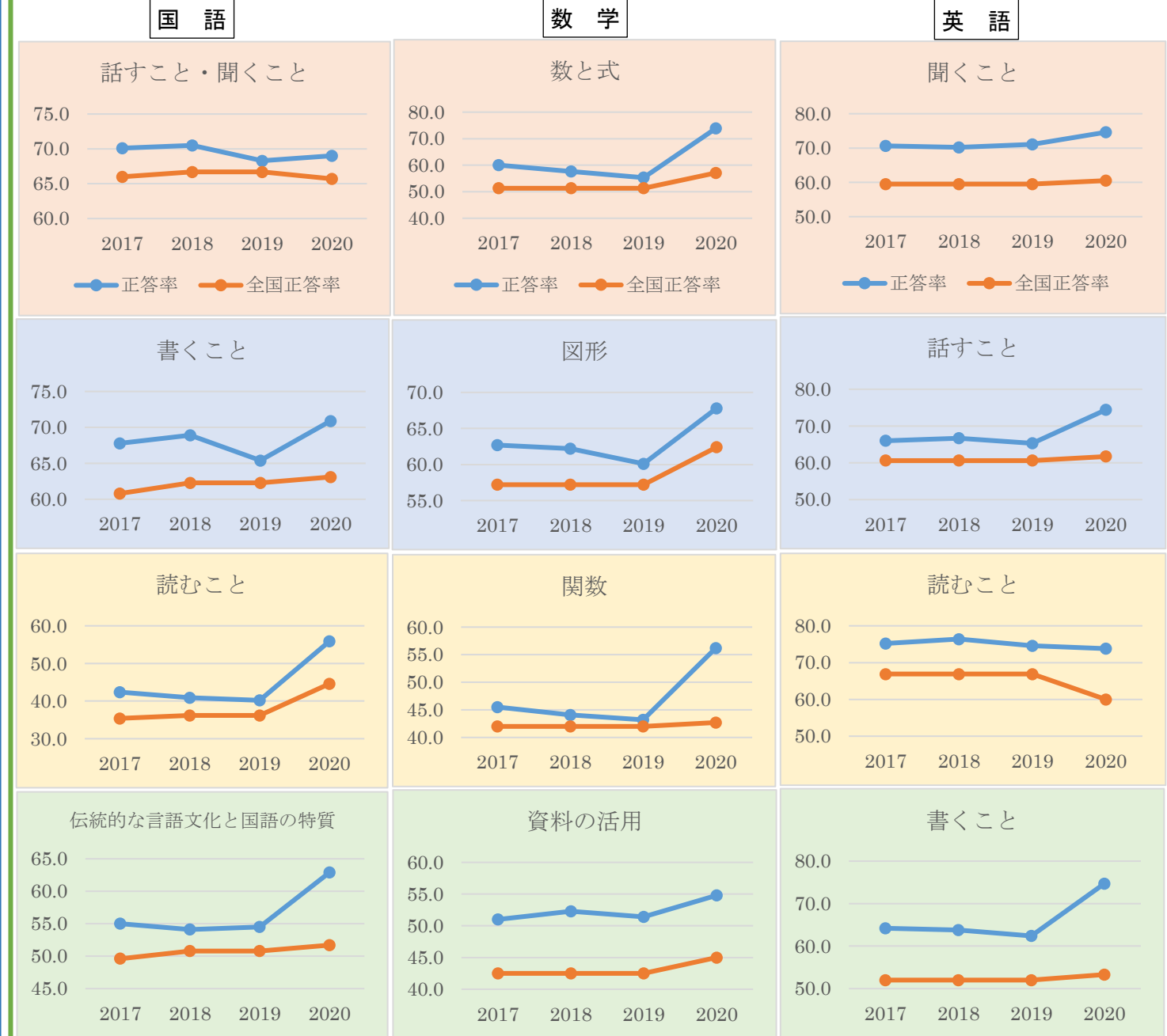
部	内容	正答率	全国正答率	全国正答率との比較	3 or 5 段階分布出現率
1	話すこと・聞くこと	69.0	65.7	105	5 14 36 34 11
2	書くこと	70.9	63.1	112	3 12 34 34 17
3	読むこと	55.9	44.6	125	3 11 20 48 17
4	伝統的な言語文化と国語の特質	62.9	51.7	122	3 8 31 31 26

国語では、学力偏差値 55 以上の段階4以上の割合が全体の 57%を占めている。また、「読むこと」の領域は全国比を 25%上回っている。

数学では、学力偏差値 55 以上の段階4以上の割合が全体の 55%を占めている。「数と式」「関数」「資料の活用」の領域が全国より約 30%上回っている。

英語では、学力偏差値 65 以上の段階5の割合が全体の 42%、学力偏差値 55 以上の段階4以上の割合は全体の 71%を占めており非常に高い。また、全ての領域で全国より 20%以上上回っている。

第3学年 大領域別集計推移



国語の「読むこと・話すこと」の領域では近年、全国の正答率（以下全国）より約 4%上回って推移している。「書くこと」の領域では、昨年度は全国より 3%程度高かったが、今年度は全国より 8%高くなった。「読むこと」の領域では、全国では昨年度より 10%程度、狛江では 15%程度高くなっていることから、問題の難度が下がったことが推定される。「伝統的な言語文化と国語の特質」の領域では、近年は全国より 4%程度高かったが、今年度は 13%程度狛江の学力が高かった。

数学の「数と式」の領域では、近年は全国より 8%程度上回って推移していたが、今年度は 12%程度も高かった。「関数」の領域では、今年も近年と同様に全国より 5%程度上回っている。「関数」の領域では、近年は全国より 3%程度高かったが、今年度は全国より 15%程度も狛江が高かった。「資料の活用」の領域では、今年も近年と同様に全国より 10%程度上回って推移している。

英語の「聞くこと」の領域では、今年も近年と同様に全国より 10%程度上回っている。「話すこと」の領域では、近年は全国より 5%程度高かったが、今年度は 10%程度高かった。「読むこと」の領域では近年は全国より 8%程度上回って推移していたが、今年度は全国の正答率が下がり、狛江が 12%高かった。「書くこと」の領域では、近年は 12%程度高く推移していたが、今年度は狛江が 21%程度高かった。